

復興支援フォーラムニュース No. 49

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫 (tkonno67@gmail.com) 中井勝己 (024-548-8313) >

=====
<第46回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

9月18日に開催した第46回ふくしま復興支援フォーラム(中原聖乃氏「放射能難民から生活圏再生へ ～マーシャルからフクシマへの伝言～」)は、25名の参加で活発な議論がなされましたが、会場で提出されたご意見等は、以下の通りです。参考にしてください。

~~~~~

★米国による核(爆発)実験場となったマーシャル諸島において、原住民の方々の被バクの現状を調査され、我が国(特に福島)の現状に対して、客観的なデータを提供され、今後の対応に参考となる指針を示されたことに感謝いたします。(K.F)

★マーシャルの状況を地道に研究されてきたことと、地元の立場に入りこんだ調査をされてきたのが伝わった。どのように居住地を移動していったか、賠償、資料を残す必要性のお話などが興味深かった。(Y.M)

★原因も、放射能汚染のレベルも違うが、帰還とか賠償とか、資料を残すとかいった課題は共通していて興味深かった。(N.I)

★マーシャル諸島では、土地利用のあり方が違うということを知りました。福島こそ先祖代々の土地を大切にしていると思っていましたが、ロンゲラップ島の人たちが土地を追われた悲劇は、より大変なことであったことをあらためて思いました。(J.M)

★チェルブイリでもそうですが、福島とマーシャルと比べて、同じところ、違うところを整理しておくことが必要と聞きながら思いました。(Y.I)

★土地の所有の仕方、母親を中心とした強い母子関係を保つ人々と、高度に都市化し、都市民の流動性を得ている現在の日本の状況下に生きる被曝民とは異なることが多すぎると思った。マーシャル語で帰るは、その土地にアクセスする権利、いつでも行けるという言葉だそうで、そのゆるさが人々に平安な気持を与え続けるのだろう。人と人との関係が保つ平安の質とは異なるように思った。(T.S)

★中原先生のお話は、前々から聞いてみたいと思っていたので、チャンスをいただきありがとうございました。島民の方たちの生活に視点をおかれた報告で参考になりました。核実験の歴史と「今」生きている人々の姿の両面が大切だというお話、福島にも必要な視点です。(K.O)

~~~~~